

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成24年 5月14日現在

機関番号：14302

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2008～2011

課題番号：20520683

研究課題名（和文）都市成熟時代における住宅地の環境変化－持続的発展に向けた地理学からの施策提言－

研究課題名（英文）Environmental Change of the Residential Area in the City Mature Age: The Measure proposal from Geography toward Sustainable Development

研究代表者

香川 貴志（KAGAWA TAKASHI）

京都教育大学・教育学部・教授

研究者番号：70214252

研究成果の概要（和文）：都市が成熟時代を迎えた現代にあつて、都市やその居住者に生じている変化を的確にとらえ、そこから将来の課題を探っていくことが必要である。本研究では、日本の千里ニュータウン、カナダ・バンクーバーのウェストブロードウェイ、中国・上海の田子坊を事例地域として、これらの成熟地域が近年において経験した変化の実態把握、問題点の洗い出し、将来の発展に向けた活性化方策の模索と提案を行った。

研究成果の概要（英文）：It is necessary for us that we catch the exactly change of the city and its residents, and we have to look for our subjects which could contribute to the sustainable development in the city mature age. In this study, I chose some model area. These are Senri New Town in Japan, West Broadway in Vancouver Canada, and Tianzifang in Shanghai China. All of them are ripened area that were developed about forty years ago and over. This research specified change which these areas experienced in recent years, and in this research, the fact was used as the base and the activation policy toward much more development has been proposed.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2008年度	700,000	210,000	910,000
2009年度	800,000	240,000	1,040,000
2010年度	600,000	180,000	780,000
2011年度	600,000	180,000	780,000
年度			
総計	2,700,000	810,000	3,510,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：人文地理学・人文地理学

キーワード：都市成熟時代、少子高齢社会、住宅地、市街地再開発、千里ニュータウン、バンクーバー、上海、日本：カナダ：中国

1. 研究開始当初の背景

世界各所で都市人口率が高まり、戦後に開

発された住宅地も成熟時代を迎えるようになった。地理学における都市研究においても、都市の空間的拡大を扱った都市化研究から、

都市再開発をめぐる研究や住宅地の再生を模索する研究の必要性が高まっている。

しかし、昨今実施されている研究は、現状把握に終始するものも多く、当該地域で生活する居住者の自己評価や将来への希望など「生の声」の吸い上げが絶対的に不足しており、こうした「生の声」を吸い上げるにも居住者が高齢化して、今後はそのような作業が難しくなることが懸念される。

そこで本研究では、研究代表者の経験（調査実績）と人脈がある国内外の成熟住宅地をフィールドに選び、各々の住宅地で生じている変化とその背景、さらに現状から考え得る問題点、持続的発展に向けた将来展望を行うことにした。

研究成果を国内外に発信するため、学会発表と論文執筆において、海外での発表の実践、論文執筆では英語だけではなく当該地域の言語も概要に添えること、これらを心がけて情報発信を図ることにした。

2. 研究の目的

経済発展段階の差を問わず、各国で顕在化している住宅地の人文的・社会的な環境変化を捉え、そこから生じる環境改善への課題や問題点を解明し、住宅地ならびに当該地域の持続的発展に向けた施策提言を地理学の観点から行う。

たとえ直接的ではなくとも、経済発展段階や政治経済体制が異なる都市の国際比較は、当該国だけの議論の枠を超えて新たな知見を得ることにつながる。そこで本研究では、当初4つの研究対象地域を国内外に設定した。共通するのは、これらの全てが建設から少なくとも40年を経過した成熟住宅地であるということである。対象に選定したのは、日本の千里ニュータウン、カナダ・バンクーバー市のウェストブロードウェイ、中国・上海の田子坊、タイ・バンコク郊外ドンムアン国際空港付近のニュータウンであった（このうちタイに関しては、現地の治安情勢悪化や研究協力体制が万全に組めなかったこともあり、他の対象地域での研究を深化させることにシフトした）。

日本、カナダ、中国における3つの対象地域では、冒頭に記した共通の研究目的があるが、生活習慣や調査に対する被験者の対応などが異なるため次項で述べるように研究方法には若干の違いがあり、必然的に調査目的や内容にも相違がある。それを列記すると次の通りである。

- (1) 千里ニュータウン：「老親は子と同居」の価値観が濃厚であった日本社会において、核家族を前提として開発されたニュータウンでは、老親と成人子との居住に関する意識、さらに親子間交流にいかなる違いがあるか。

- (2) ウェストブロードウェイ：既存市街地の再生現場で注目されているスモールビジネスの代表格として小売商店を事例として取り上げ、1996年5月に調査して結果を論文化している当地域において、その10数年後の状況を調査し、経過観察で把握していた住居機能の拡充と商業地の変化の関係を解明する。

- (3) 田子坊：1990年代にクリエイティブゾーンと認定された当地域は、中国国内で最も注目されつつある住商混合地域である。しかし、商業者と居住者との関係をはじめ、不明な点が余りにも多い。両者の価値観の違いを解明することで、当地域だけでなく、コンパクトシティに関心が集まる中での住商混合の理想像を模索する。以上の3地域における研究成果を国内外に発信する（論文執筆の際に少なくとも英文要旨、可能であればフランス語や中国語の要旨を付帯させ、関係フィールドでの理解を促すなど）。

3. 研究の方法

本研究は、主に日本（千里ニュータウン）、カナダ（バンクーバー市ウェストブロードウェイ）、中国（上海市田子坊）で実施したが、それぞれのフィールドの特質に応じて研究方法に若干の相違がある。そこで以下では、各々の主要フィールドにおいて行った研究の調査方法について記す。

- (1) 日本（千里ニュータウン）：統計分析、居住者を対象とした留置返送方式のアンケート調査、聴き取り調査。
- (2) カナダ（ウェストブロードウェイ）：統計分析、現地における観察、商店や事業所の経営者・従業員や来街者への聴き取り調査。
- (3) 中国（田子坊）：古地区による生活環境復原、現地観察、商業者および居住者を対象とした聴き取り調査（中国人学生を活用）。以上3箇所のフィールドにおける研究成果は直接的に比較研究したものではないが、調査方法、学会発表、論文執筆において比較地誌学的な視点を援用する際に相互にプラス作用を及ぼし、各フィールドでの研究の質を飛躍的に高めることに成功した。

4. 研究成果

本研究では、フィールドに選定した3地域について、丁寧かつ実証的な研究を心がけた。それぞれのフィールドに特有の条件が異なっているため、直接的な相互比較には至らなかったが、各々のフィールドでは、従来明らかにされていなかったことが解明できた。その成果をフィールド別にまとめ、それが国内外に与え得るインパクトを記し、今後の展望や研究計画を示しておく。

- (1) 千里ニュータウン

①研究成果：研究のターゲットを、高齢社会における親子近接別居に定めた。これは、ニュータウンのように核家族を前提にした間取りが多い地区において、少子高齢時代の暮らし方を模索する試みである。結果、同居が志向されていた日本社会でも、親子近接別居が第一世代（親世代）と第二世代（子世代）ともに高く、特にこの傾向は老親と成人子（とくに娘）の間で強いことが分かった。また、親子間の交流は近畿圏外に子が居住している場合は「盆と正月」程度になることも判明した。

②国内外へのインパクト：研究成果は学会での口頭発表に加え、査読付雑誌に英文要旨を添えたものを掲載した。日本では親子近接別居に触れた研究そのものが少なく、今後の少子高齢社会における住み方の一モデルを提示できた。親子近接別居は特に欧州で着目されている考え方であるが、研究事例の多くが国家レベルのスケールに終始しているため、ミクروسケールでの研究は新たな知見を与え得るものと確信している。

③今後の展望 高齢者が何を求め、何に不満を持っているのかを一層深く追究していく必要がある。それは間違いなく高齢社会におけるバリアフリーの徹底やユニバーサルデザインの街づくりへの応用を通じ、大きな社会貢献となり得る。長期間にわたって継続居住している高齢者に効率的な聴き取り調査を行うのは、彼らの年齢や健康状態からしてラストチャンスであると考え、正確なデータ収集を基盤として、シルバータウンとなったニュータウンの再生に向けた研究の深化を図りたい。

(2) バンクーバーのウェストブロードウェイ

①研究成果：大型ショッピングセンター（SC）が小売業界の主流である北アメリカにおいて、在来型商業地が活気を保っている典型例の一つがバンクーバーのウェストブロードウェイである。数多くの研究先例から、その活気の維持がエスニック文化に根差していることが分かったため、研究代表者は 1996 年に自らが実施した研究成果との比較を試み、それ以降の変化を追求することで活気の維持に関する実態解明を目指した。それは、高齢社会において早期に宅地化が進んだ当地域において持続的発展の基本的要素を探る作業でもあった。当地域を支えた民族資本はギリシャのものであったが、それは一見衰退しているようで、実のところ文化的に融合を果たしていることが判明した。また、当地域の建物更新は、その多くが上層階に住宅を組み込んでおり、そこに転入してくる人びとが人口のバランスを整え、地域活性化に貢献している様子を看取できた。

②国内外へのインパクト：国内ではシャッタ

一通りになった商店街の活性化を図る場合などに応用が可能である。従来は商業機能だけに焦点を当て、それをいかに整備していくかに関心がもたれていたが、商業地域の持続的発展には、顧客としての消費者が徒歩圏内に多く居て、なおかつ当該地域に愛着を持つ人びとの継続居住とともに、新しく転入してくる居住者が必要であることを知り得た。国外へのインパクトに関しては、カナダや国際地理学会での公用語である英語とフランス語の要旨を伴う査読付雑誌に論文を公表した。現地の大学にも、本研究の成果は届けており、今後同様の研究が行われる場合に少なからぬ貢献ができるであろう。

③今後の展望：今回の研究では、1996 年時点との定点比較が達成できたので、今後の経年的分析を通じて、更なる定点比較が可能となる。現地の店舗群は建物の老朽化が進んでいるものも多く、今後は一層の改築が推定されるため。本研究は資料的な価値も高いといえよう。また、調査の際に副産物として得たバリアフリー対応の重要性は、研究代表者が成熟住宅地の持続的発展を研究していく基盤となっている。

(3) 上海の田子坊

①研究成果：上海の田子坊は、都心 3 区の一つを構成する芦湾区に位置する伝統的な住宅地であった。そこが 1990 年代初頭から自然発生的に商業地域へ変化を遂げ、今日では創造産業や多数の飲食店・小売店が並存する独自の空間を形成している。ただ、ここで居住する人びとや店舗関係者がどのような属性を持ち、相互にどの程度のかかわりを持っているのかは明らかにされてこなかった。本研究では、両者に相互交流が殆ど無いこと、活気ある環境を肯定的に捉える事業者、それを否定的にみる居住者の鮮やかな対比が、聴き取り調査を通じて解明できた。ただ、両者の満足点と不満足点はまったく相入れないものではなく、少しの工夫でうまく共存できる余地があることも分かった。

②国内外へのインパクト：研究成果は国内外の学会（日本および中国）で発表し、中国でのものは既にプロシーディングスとして短い論文にまとめている。これは本文を日本語で記したものであるが、国内外への情報発信を企図して、中国語および英語の要旨を添えている。

③今後の展望：上海において通訳の手配など研究協力体制が従来にまして強化できたため、今後は当地域での研究の深化にとどまらず、現在の研究課題として基礎調査を進めている「成熟住宅地の持続的発展」につなげていける素地が整った。また、田子坊の研究成果は、補足調査を追加実施したことなどにより、国内の学術専門雑誌には未発表のため、少しでも早く成果の公表に至れるよう努め

たい。さらに、調査の過程で副産物として得られた、上海の1940年代の詳細地図（日本の住宅地図に近いもの）は資料的価値が極めて高いため、中華民国時代の上海の都市構造を解明していく作業にも今後取り組んでいく所存である。

(4) 3つのフィールドを通じて得られたものの

以上に記してきた3つのフィールドにおける研究成果を総括すると、今後の少子高齢社会における成熟住宅地の持続的発展に向けては、次のことがらが基盤として必要なことが分かった。

- ①新たな居住者を迎えられる住宅の供給
- ②新旧住民（親子関係を含む）の相互交流を通じた街づくり
- ③高齢者だけでなく若い転入居住者や商業者を満足させ得る地域環境（バリアフリーにとどまらないユニバーサルデザインが必要）

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計4件）

- 1) 香川貴志 (2011) 「少子高齢社会における親子近接別居への展望—千里ニュータウン南千里駅周辺を事例として—」人文地理、63-3、pp. 209-228、査読付。
- 2) 香川貴志 (2011) 「バンクーバー市ウェストブロードウェイにおける住居機能の拡充と在来型商業地の変化」都市地理学、6、pp. 1-18、査読付。
- 3) 香川貴志 (2011) 日本人地理学研究者が見た上海市芦湾区田子坊の長短所と将来展望」中日地理学及観光研究所設立記念シンポジウム発表論文集（原題は中国語、上海で出版）、pp. 48-54、査読付。
- 4) 香川貴志 (2009) 「バンクーバー—その素顔と魅力—」地理、54-11、pp. 8-21、査読無。

〔学会発表〕（計6件）

- 1) 香川貴志 (2012) 「再開発地区の商業者と居住者による環境評価の不整合—上海市芦湾区田子坊の事例—」日本地理学会春季学術大会（2012年3月28日、首都大学東京）。
- 2) 香川貴志 (2011) 「再生段階の千里ニュータウンにおける分譲マンション供給とその実態」経済地理学会関西支部2011年度4月例会、2011年4月23日（大阪市立大学文化交流センター）。
- 3) 香川貴志 (2011) 「上海市芦湾区田子坊における商業化とその課題—伝統的住宅と商業の混在に着目して—」日本地理学会春季学術大会、2011年3月29日（明治

大学）。

- 4) 香川貴志 (2009) 「少子高齢化時代における親子近接別居—千里ニュータウンの公営住宅と分譲マンションを題材として—」人文地理学会大会、2009年11月8日（名古屋大学）。
- 5) 香川貴志 (2009) 「バンクーバー市ウェストブロードウェイにおける住居機能の拡充と商業機能の変化」日本地理学会秋季学術大会、2009年10月25日（琉球大学）。
- 6) 香川貴志 (2008) 「バンクーバーとその周辺におけるスカイトレインの事業展開とその特徴」人文地理学会第8回公開セミナー『地理学からみた都市内交通と都市環境』（2008年10月25日、佛教大学四条センター）、招待講演。

〔図書〕（計3件）

- 1) 香川貴志 (2010) 「世界屈指の暮らしやすさの秘密—バンクーバーの住宅地とその景観—」（阿部和俊編『都市の景観地理—イギリス・北アメリカ・オーストラリア編—』古今書院、所収）、pp. 33-41、分担執筆。
- 2) 香川貴志 (2010) 「分譲マンション供給からみた三大都市圏の構造変容」（富田和暁・藤井正編『図説 大都市圏』古今書院、所収）、pp. 20-23、分担執筆。
- 3) 香川貴志 (2010) 『バンクーバーはなぜ世界一住みやすい都市なのか』ナカニシヤ出版、196p.、単著。

6. 研究組織

(1) 研究代表者

香川 貴志 (KAGAWA TAKASHI)
京都教育大学・教育学部・教授
研究者番号：70214252

(2) 研究分担者

なし ()

研究者番号：

(3) 連携研究者

なし ()

研究者番号：